

令和3年度 第6回（確定稿） 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録

■日 時:令和4年3月8日(火)18時00分～19時30分
■会 場:オンライン(Zoom)

1. 報 告 事 項

- (1) 業務報告(令和4年1月・2月)について(資料1)
- (2) コーディネート状況月次報告(資料2)、コーディネート実績(資料3)
- (3) 「ボランティアはじめて講座」開催報告
- (4) 「登録ボランティア懇談会」 / 「ボランティアのつどい」 について
- (5) 業務予定(令和4年3月・4月)について(資料4)

○事務局より、(1)～(5)について資料を用い説明を行った。

【委員長】 報告について何か意見はあるか。

【委員】 「ボランティアはじめて講座」を初めてオンラインで開催したということだが、今後も続けていくことを考えるのなら、次につながる何かマニュアルのようなものを作っていくのか。

【事務局】 形を整えて取り組んでいきたい。

【理事】 周知の方法と参加者の年齢層を聞きたい。

【事務局】 西東京市社会福祉協議会のホームページと公民館、図書館へチラシの配架を行った。大学生から60代の方まで幅広い年齢層の方々に参加してもらえた。

【理事】 今後も声掛けする年齢層を変えるなど工夫をしていけば、参加者の増加が見込めるのではないかと。

【事務局】 2月末の開催ということもあり、定年を迎える方が数名参加された。退職後に地域参加を目指している方をターゲットにしていくのも良いのではないかと感じた。

【委員長】 良いと思う。興味のある人は積極的に情報を集め、アクセスしてきている。大学生も4月に入学して何かやってみたいと思う学生もいる。そのようなところを耕していくのも良いのではないかと。

【委員長】 次に「登録ボランティア懇談会」についてだが、どのような人が参加されるのか。

【事務局】 ボランティア登録をされている方が対象で、今回のテーマである「学校支援ボランティア」に関心のある方からの申し込みがある。

【委員長】 今後の活動につなげていくことと理解する。

「ボランティアのつどい」について委員から意見をもらいたい。

【委員】 話し合ってきた内容が形になり、絵も多く、子供たちにもわかりやすい仕上がりになっ

ている。完成が楽しみである。

【委員】配布先はどこになるのか。公民館などにも配架するのか。

【事務局】市内の小学校4年～6年生と中学生を予定している。登録ボランティアにも送付するので、公共施設にも配架していきたい。

2. 審議事項

(1) 令和3年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)について(事前送付)

○事務局へ3月15日(火)までに修正をいただき、完了したものを確定稿とする。

3. 協議事項

(1) 備品貸し出しについて

【事務局】第4回運営委員会で、所有機材等貸出規則と貸出備品リストを資料として配布している。備品の変更について賛成いただき意見を出してもらった。規則の改定に向け、理事会・評議員会に議案として協議してもらうため社協内で検討した。その際2つの課題が出された。1つ目は貸出備品に有料と無料があること。2つ目は有料とする場合の貸出備品の品目と金額設定についてである。近隣市や協働推進センターゆめこらぼなどの状況を見ていただき質問を含め、改めて意見をいただきたい。(貸出備品の項目を画面共有にて確認)

貸出備品については西東京ボランティア・市民活動センターが補助事業であるため、自己財源確保の理由から有料としてきた経緯がある。コピー機、印刷機については現状のまま有料とし、プロジェクター、スクリーン、アンプ、マイクについては有料にするのか、無料にするのか議論していただきたい。

【委員長】コピー機、印刷機を除く、有料になっている備品について意見を出してもらいたい。

【委員】備品の経過年数や使い勝手を考えると、プロジェクターが2泊3日で2500円では借りないと思う。メンテナンスを自己財源からとなると厳しいと思うが、設定金額が高いのではないかな。新型の機材を低価格で提供し、品目についてもスピーカーマイクなどがあると良いのではないかな。

【委員長】スライド映写機などあるが、現在のラインナップは残していくのか。

【事務局】ラインナップに関しても変更していきたいと考えている。先ほど委員が提案されたスピーカーマイクなどは、オンライン会議も増えて活用されている。無料備品は所有機材等貸出規則から外し、有料備品に関しては規則の中で考えていかななくてはならない。

【委員長】例えばスライド映写機は無料にし、使えなくなったら破棄すると考えてよいか。

【事務局】その通りです。ビデオデッキについてもビデオテープがDVDに代わり、ブルーレイディスクになり、ビデオの必要性も無くなりつつある。

【委員】今、プロジェクターもかなり安価で手に入る。ワイヤレスアンプやマイクもボランティアグループに貸し出すのであればこの値段は高いと感じる。しかし、維持費を確保するのであれば有料が良いと思うが、使用頻度によって確保できないのであれば無料にしても良いのではないかな。

- 【副委員長】 貸出期間の設定が連続2泊 3 日となっているが、団体などが使用する場合2～3時間であるため1日の設定はできないのか。無料ならば尚良いと思うが。
- 【事務局】 規則が平成22年に改定されてから今日まで変更がなかったなので、考えなければならぬ。貸出期間が2泊3日に設定されている理由としては、ボランティアセンターが日曜日は休みで、週末に使用される方の返却日を考慮したためである。
- 【委員長】 使用頻度の少ないものに関しては無料にし、有料備品に関しては料金の見直しや貸出期間も1日とか半日など、規定を変えればより利用しやすくなるのではないかと、という意見が出されたが他にあるか。
- 【理事】 ワイヤレスアンプ、ワイヤレスマイクなどは、無料で借りられる公共施設があるということ。また、貸出備品を壊されてしまった場合はどのように対処しているのか。保険に入っているのか。
- 【事務局】 今までは無いが、破損させてしまった場合は弁償してもらう規則になっている。
- 【理事】 ワイヤレスマイクは乾電池の消費が大きい。消耗品は利用者に用意してもらっても良いのではないかと。
- 【事務局】 実態に合った機材の貸し出しを考えていきたい。
- 【委員長】 運営委員会の意見として検討いただきたい。

(2) 令和4年度事業計画・予算について(資料 5)

- 【事務局】 令和4年度の予算は前年度より下がっているが大きな違いはない。事業計画としては「気球くんプラン」に沿って立てている。前年度の係の方針でコロナ禍でのニーズ把握をすることから始め、必要なボランティア活動ができるようスキルアップを検討するとあった。実際には収束が見えず、この先どのように計画を遂行していくか、今年度は検討から実行に移していけるよう柔軟な取り組みに努める。講座なども手法を変え継続していきたい。続いて前年度から変更になった点について説明する。「紹介・相談の取り組み」についてはボランティアセンターの役割の他、市民協働推進センターゆめこらぼと連携し業務の充実を図っていくこと、「ネットワーク作りの取り組み」については、ボランティア活動の際に生じる様々な悩みや課題を把握する機会を増やし、活動しやすい環境作りに努めると追加記載をした。次に、「活動援助の取り組み」についてだが、前年度は機材を貸し出すことにより自己財源とするとしていたが、先ほどご意見いただいたように今年度は機材の貸し出しについて見直しをおこなうとした。
- 【委員長】 事務局の説明を踏まえ来年度の事業計画の内容、もしくはコロナ禍でのボランティアの受け入れ側、または活動者としての課題や、様々なボランティアセンターのあり方について意見はないか。
- 【委員】 傾聴活動をしているが、居場所、サロンなどの情報を集約するための連絡が取れていなかったりする。ネットワーク作りが必要である。コロナ禍で苦勞している団体で、Zoom やオンラインを活用することができない人に対し、困っていることはないかという聞き方があっても良い。ボランティアの年齢も上がり、使い方がわからない人に対してバックアップすることも必要ではないか。
- 【委員長】 コロナ禍で苦勞されたと思うが、ボランティアを受け入れる側としての意見もいただきたい。

- 【委員】 この 2 年ボランティアの受け入れができていない。各事業所によって受け入れの線引きが様々で、清掃など直接利用者とかわらない活動は受け入れしているところもあるが、私の事業所は厳しく、まん延防止措置が出ている間はそれもおこなっていない。慎重にならざるを得ない状況である。市外の施設で Zoom を使い、特技披露してもらったり、赤ちゃんがいる家庭とつないだりして入居者に喜んでもらっていると聞いた。受け入れ側からコロナ禍でもできる活動を紹介していけたら幅が広がると感じた。
- 【委員長】 ボランティア活動は、やりたい人と来てもらいたい人の相互の思いが大事なのではないかな。
- 【委員】 コロナ禍に対処した新しいやり方を探していかなければならない。研修などを受けるとオンラインになり参加しやすくなったという意見と、生の声が聞けなくなり物足りないという意見とがある。企画する立場になると迷ってしまう。どちらが良いのか明確にわかる基準もない。両方やれるのが良いのだろうが、伝え方の選択肢が増えたと考えるしかない。先ほどの委員がオンラインのできない人に対して困っていることはなにかという聞き方があっても良いと発言された。できない人を排除するのではなく、ボランティアセンターのできる範囲での活躍を期待している。
- 【委員長】 大学でも、この2年間はオンラインの対応が中心となっている。学生の貴重な学びのあり方が大きく削がれていると感じる。但し、ずっと家に引きこもってパソコンを見ている学生もいれば、バイトやボランティア活動をしている学生もいる。やりたいと思っている学生は応援していきたい。1年生からコロナ禍だった学生は、ほとんど家から出ることなく過ごしている人も多い。そのような学生に多様なボランティアのあり方などにふれ、これならできるかも、こんなことやってみたいなど、選択肢を増やしていつてくれると良いと思う。
- 【委員】 小学校の中にはボランティアを総合的学習の中に位置づけている学校もある。今年度は東京 2020 オリンピック、パラリンピックの開催に伴い、総合的学習の中に入れるよう東京都から指導があった。オリンピック、パラリンピック教育の中にボランティアという視点が入っている。スポーツ志向、国際理解、障がい者理解、自国文化理解という 5 つの柱の 1 つになっている。授業の中にボランティアを織り込んでいいる学校が多いと思う。コロナ禍で地域の保育園児や障がい者の方との交流などといった、人との関わりが持てないので、地域のごみ拾いなど、できることを行っている。オリンピック、パラリンピックは終わったが、来年度以降もオリンピック、パラリンピック教育は継続していく。計画の中にボランティアという視点は入ると思う。授業の中にボランティア的なものを入れてくるのではないかな。
- 【委員長】 積極的な流れがある中で、きちんと応えていける取り組みが必要になる。
- 【事務局】 コロナ禍で必要とされること、また新たな課題に対しボランティアセンターができることを模索しながらおこなっていききたい。
- 【副委員長】 私が関わっている団体が、ボランティアセンターに依頼をし、ボランティアを紹介してもらった。ボランティアさんには参加して良かったと感じてもらえ、こちらは来ていただいて良かったと思える関係になった。ボランティアさんの持っているスキルを活かし今後も一緒に活動したいと言ってもらえた。ボランティアさん自身も自分が地域貢献できる場ができたと言ってもらえた。ボランティア登録した人が自分のやりたかつ

たことを思い起こさせる良いマッチングであった。感謝している。

4. そ の 他

(1) 来年度運営委員会日程について

【事 務 局】今年度同様、奇数月の第2火曜日でよろしいか。

○ 一同の了承を得る。

【委 員 長】具体的な日程の調整をお願いします。

【事 務 局】事務局から3点報告がある。

2月22日に田無町でマンション火災があった。火元の階下の住宅数軒に放水による浸水被害があり、ボランティアを紹介し片づけをおこなった。

次に、新型コロナウイルスに対する感染症対策マニュアルを作成し、それに基づき出勤、休暇など取り扱っている。人と接する業務であるため、お互いの健康を守っていけるよう心掛けたい。

最後に、コンピューターウイルス Emotet と思われるメールが西東京市社会福祉協議会、ボランティアセンターに届いている。感染はしていないが職員の名を騙りメールを送っている可能性がある。ホームページでも注意喚起をしているが、気を付けていただきたい。

【委 員 長】今年度最後となるが、来年度も引き続きボランティアについて考えていきたい。

次回運営委員会開催日程について

■日時:令和4年 5 月 10 日(火) 18時30分～20時00分

■会場:田無総合福祉センター 3階 第1会議室

※状況により ZOOM にて開催18時00分～19時30分

配布資料

資料 1	: 西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(令和4年1月・2月)
資料 2	: ボランティアコーディネート状況等月次報告表(令和4年2月28日現在)
資料 3	: ボランティアコーディネート実績表(令和4年1月・2月)
資料 4	: 西東京ボランティア・市民活動センター事業業務予定(令和4年3月・4月)
資料 5	: 令和4年度事業計画(案)